

集中豪雨

東海地方では平成12年の東海豪雨や平成20年8月末豪雨などの大きな被害が発生しました。今年は名古屋市街に大きな被害をもたらした東海豪雨から10年目にあたります。最近、予測困難な局地的集中豪雨が増えてきているのではという声も聞かれます。そこで、今年の公開講座では皆様の関心の高い「集中豪雨」をテーマにします。気象庁の最新の降雨観測システムやそれによって捉えられる豪雨の実態、集中豪雨発生メカニズム、集中豪雨などの極端現象の将来予測に加え、集中豪雨の予報技術と防災への生かし方までを取り上げます。日々進歩する最新の豪雨研究の話題にふれてみませんか？

日時：2010年8月23日(月) 13:00～16:00 (開場12:30)
場所：名古屋大学野依記念学術交流館(2階カンファレンスホール)

プログラム

1. 開会の辞 13:00～13:10
高瀬邦夫(名古屋地方気象台長、気象学会中部支部長)
2. 「気象庁における降水観測の発展と最新観測システムの成果」 13:10～13:50
石原正仁(気象庁気象研究所 気象衛星・観測システム研究部長)
3. 「集中豪雨をもたらす降水システムの構造 ～平成20年8月末豪雨を例として～」 13:50～14:30
篠田太郎(名古屋大学地球水循環研究センター 助教)
- 休憩 14:30～14:40
4. 「気候変動に伴う極端気象現象の将来変化」 14:40～15:20
鬼頭昭雄(気象庁気象研究所 気候研究部長)
5. 「気象業務からみた集中豪雨の予報技術と防災への生かし方」 15:20～16:00
牧原康隆(気象庁 総務部参事官)

申し込み方法：直接会場にお越し下さい
定員：200名(先着順)
受講料：500円(テキスト代込み)
主催：日本気象学会中部支部・
名古屋大学地球水循環研究センター
後援：名古屋地方気象台・日本気象協会
問い合わせ先：名古屋市千種区日和町2-18
名古屋地方気象台内
日本気象学会中部支部
公開気象講座事務局
電話：052-751-5124

URL:<http://www.msj-chubu.jp/koukaikouza.html>

